



2011 年度 事業報告書



代表理事あいさつ

特定非営利活動法人エコ・リーグは、おかげ様で無事に 2011 年度の事業を終えることができました。皆様のあたたかいご支援に厚く御礼申し上げます。

1992 年にリオデジャネイロで開催された地球サミットに影響を受け、国内青年環境活動家のネットワーク構築を目的として 1994 年に設立されたのが、当団体の前身であるエコ・リーグ(全国青年環境連盟)です。設立 18 年目を迎え、2012 年 2 月に法人格を取得し、特定非営利活動法人エコ・リーグとして新たな一歩を踏み出しました。

任意団体設立当初とは青年環境活動を取り巻く環境は大きく変わっています。

ここ数年で環境問題が”エコ”という言葉で置き換えられ、メディアにて連日取り上げられるなど環境問題に触れない日はないといえるほど、環境問題は一般的に知られるものとなりました。

認知度は上がりつつあるため、啓発活動から問題解決のための活動が必要です。

エコ・リーグも同様であり、変革すべき時であると考えています。

ネットワーク中心の事業から社会問題を直接解決するための事業へと転換していくべきであると考え、今年度は「ビジョン達成のための中期計画の策定」「6 月に開催される Rio+20 と東日本大震災を契機として今後の社会のあり方について考える場づくり」を中心に行っていきます。

このような変革期ではありますが、変革期だからこそみなさまと一緒に今後の社会、青年環境活動について考え、「行動」していきたいと思っています。

私自身もエコ・リーグで活動を始めてから 7 年目を迎えます。これまで様々な立場に関わって来たからこそ変えたいと思うことは沢山あり、変わることができると思っています。

今後とも、青年の環境活動の活性化のため、よりよい場やサービスを提供できるよう努めてまいりますので、ご理解・ご支援のほどよろしくお願い致します。



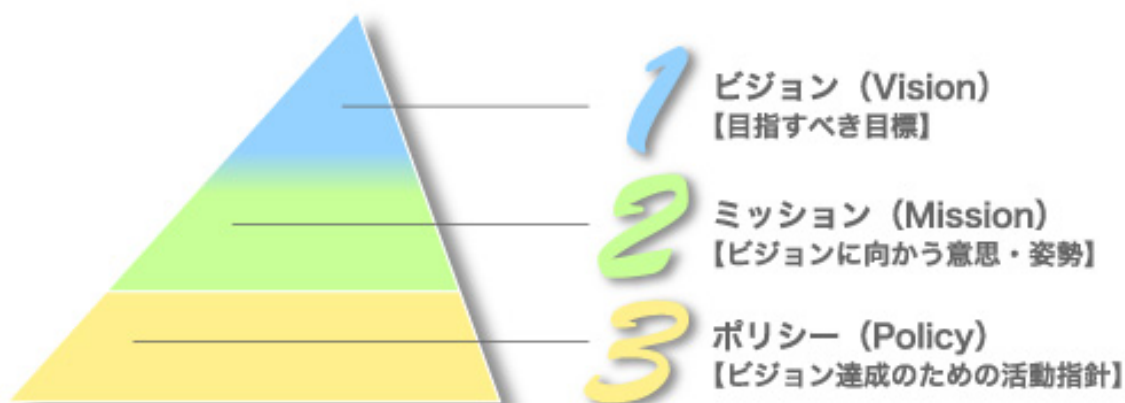
2012 年度代表理事 岡田 彩

目次

代表理事あいさつ.....	- 1 -
目次.....	- 1 -
エコ・リーグのビジョン・ミッション・ポリシー.....	- 2 -
法人化についてのご報告.....	- 2 -
2011 年度の主なできごと.....	- 3 -
事業概要.....	- 5 -
ネットワークサポート事業.....	- 6 -
人材育成事業.....	- 8 -
社会発信事業.....	- 9 -
ご支援、ご協力、参加委員会(50 音順).....	- 10 -
寄付プロジェクト.....	- 10 -
2011 年度収支決算書 自 2011 年 4 月 1 日 至 2012 年 3 月 31 日.....	- 11 -
エコ・リーグのあゆみ.....	- 12 -
組織概要・役員一覧.....	- 13 -
サポート・会員・ボランティア募集.....	- 14 -
物販.....	- 14 -

エコ・リーグのビジョン・ミッション・ポリシー

エコ・リーグは目指すべき最終的目標である「ビジョン」、ビジョンに向かう姿勢を示す「ミッション」、そしてビジョン達成のための活動指針である「ポリシー」の3つを定め、活動の方向性を決めています。



1 ビジョン (Vision) 【目指すべき目標】

エコ・リーグは青年の環境問題解決への問題への取り組みにより、持続可能な社会の実現を目指します。

2 ミッション (Mission) 【ビジョンに向かう意思・姿勢】

エコ・リーグは青年の環境問題解決への問題への取り組みを、青年の社会的責任の一つと考え、その取り組みを支援し、活性化していくことを使命とします。

3 ポリシー (Policy) 【ビジョン達成のための活動指針】

エコ・リーグの具体的な活動内容は、このポリシー（①ネットワークの活性化・②人材育成・③社会への発信）に沿ったもので構成されています。

法人化についてのご報告

2011 年度において、エコ・リーグは法人格を取得し、特定非営利活動法人エコ・リーグとなりました。

エコ・リーグは 1994 年から任意団体として活動を行ってきました。しかし、長年に渡る活動の成果・会員の皆様からのご支援等もあり、近年は収支決算が数千万円に上る団体規模となっており、そのような状況の中で、法人格を持たない任意団体としての活動を続けることのリスク（銀行口座が団体名義で開設できないため、団体としての資産管理が不十分、等）や不都合（自治体からの大規模・高額委託事業を法人格が持っていないために受託できない、等）が生じている状況でした。この問題を解決するため、2011 年春のスタッフギャザリングにおいて、法人化取得へ向けて動き出すことを運営メンバー内にて合意しました。法人化移行に向けて、7 月に会員の皆様へ向けて法人化取得の方針をお知らせし、8 月に設立総会を開催いたしました。その後、10 月に東京都へ法人認証申請の書類を提出した結果、2012 年 2 月 21 日に特定非営利活動法人エコ・リーグの設立に至りました。

上記の流れにより、法人化を行いました。法人化したということに満足するのではなく、法人化したことによって組織としての信用度・安定性を向上させたことをきっかけとし、2012 年度以降、より大きな事業や新しい事業を創造する組織へと発展させ、青年による環境問題への取組を活発にしていけることが重要だと考えています。

（原田 紘子）

2011 年度の主なできごと

Beyond

現在起きている様々な課題を克服し、持続可能な社会を築くためには、単一の分野からのアプローチだけでは限界があります。持続可能な社会への道筋を環境・経済・社会の3分野から見つめることで、いま私たちが取り組まなければならない課題を浮き彫りにし、行動に落とし込むことをねらいとして Beyond2011 を初の試みとして開催しました。

■日時 2011 年 9 月 16 日～19 日

■場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

■参加者数 263 名

■特色



○実行委員会形式の採用： 様々な分野で活動する若者の議論を促進するため、Beyond2011 では、10 団体による実行委員会を構成し、運営に当たりました。エコリーグは実行委員会団体兼事務局団体として運営に当たりました。

○イベント後も続くつながり： 持続可能な社会の構築は一朝一夕にはいきません。Beyond2011 は、イベント終了後も立ちあがったプロジェクトの支援や、ネットワークを広げていくためのイベントを開催しました。

■成果及び今後の展望

○様々な団体との共同運営： エコリーグでは過去に他の多数の団体と共同で事業を行った経験がほとんどなかったため、実行委員会形式を採用するかどうかは大いに議論された点でした。問題点も多く発生したものの、結果的にはそれぞれの団体の強みを発揮し、無事に実施できたことは大きな成果でした。

○プロジェクト：Beyond2011 では 17 ものプロジェクトを生み出すことができ、そのうち 5 プロジェクトは半年後も活動を続けています。プロジェクトを生み出す場として一定の機能を果たすことができたと考えています。 今後はより多くのプロジェクトが継続し、質を高められる支援のあり方を検討していくことが求められています。

○参加者： 今回多くの方にご参加いただくことができました。しかし、当初の想定の半分以下であったこと、参加者の活動分野が環境に偏ってしまったことは大きな反省材料です。より多様な方が参加できるよう、よりよい場づくりを目指します。

<http://project.eco-2000.net/beyond/>

(福島 宏希)

CCC

Campus Climate Challenge(CCC)はキャンパスから温暖化対策の推進を図るキャンペーンです。米国の若者が始めたこの取り組みを受け、2008 年に NPO 法人エコリーグが中心となって CCC 実行委員会を結成し、活動を行っています。日本では多くの大学がコスト削減や社会的責任の一貫として省エネ対策などの取り組みを行っていますが、組織の規模や環境負荷の大きさに対してまだ十分な対策が取られているとは言えません。

■活動内容

①全国大学環境対策実施状況調査

一般的な民間企業よりも社会的責任や情報公開の意識や制度が遅れている大学においては、当然環境対策実施状況に関してもほとんど把握されていません。そこで、全国の大学を対象に調査を行い、現在取り組まれている状況を把握しています。2011 年度は 750 校を対象に調査を行い、166 校から回答を得ることができました。

②エコ大学ランキングの策定・発表

大学における課題は様々あり、全ての大学が環境対策に力を入れているわけではありません。逆に熱心に取り組んでいる大学が外部から評価される機会も限られています。そこで前述の調査で得られた情報を基に、エネルギー消費量などの環境負荷の大きさや、対策実施状況を評価して作るエコ大学ランキングを策定し、発表しています。第 3 回目となる 2011 年度は名古屋大学が総合第 1 位となりました。ランキングの結果は新聞やテレビなど約 20 のマスメディアに取り上げられ、大きな注目を集めました。

③全国エコ大学白書の発行

調査結果から得られた統計分析データや、調査およびランキング上位の大学担当者へのヒアリングなどで得られた各大学の特色ある取り組みなどを記載した「全国エコ大学白書」を発行しています。

④活動サポート

大学内で環境・省エネ対策に取り組んでいる担当者の方、および学内をフィールドに環境活動に取り組んでいる学生の方々をサポートするために、講師を招いた研修会を開催したり、活動資料集を作成したりするなどしています。

■成果および今後の展望

エコ大学ランキングは新聞、テレビ、ラジオなど多くのメディアに取り上げられ、認知度が高くなってきました。一方で調査の回答率は20%余りと十分とは言えません。また、電力需要の逼迫およびそれに伴って行政主体で節電要請がされるなど、この課題を巡る状況が急速に変化しています。現状把握の段階から対策実行段階でのサポートに徐々に活動の軸を移していく必要があります。



▲ 第3回エコ大学ランキング表彰式の様子

左2名：岩手大学 中央2名：名古屋大学 右2名：郡山女子大学

エコ大学ランキングは新聞、テレビ、ラジオなど多くのメディアに取り上げられ、認知度が高くなってきました。一方で調査の回答率は20%余りと十分とは言えません。また、電力需要の逼迫およびそれに伴って行政主体で節電要請がされるなど、この課題を巡る状況が急速に変化しています。現状把握の段階から対策実行段階でのサポートに徐々に活動の軸を移していく必要があります。

(上地 成就)

紛争鉱物

私たちの豊かな生活を支えている携帯電話やパソコンに使用されているレアメタルには、紛争の資金源になっているものも含まれています。この問題は金属採掘地の環境破壊・汚染とも密接に関わっており、世界的に重要な課題となっていますが、日本ではあまり認知されていません。そのため、パナソニック株式会社様のご協力のもと、大学生が中学生向けの教材を作成し、実際に中学校で授業を行っていくプロジェクトを行うことにしました。

■期間 2011年10月～2012年10月

■参加者数 全国の大学生 15名

■スケジュール

2011年 10月 キックオフミーティング @パナソニックセンター
11月 勉強会 @国立オリンピック記念青少年総合センター
12月 中間報告会 @JICA 地球ひろば

2012年 2月 杉並区立和田中学校にてプレ出前授業(2回)
全体ミーティング @エコギャラリー新宿

3月 「紛争鉱物に関する教材発表会」
@国立オリンピック記念青少年総合センター

2012年 4月～ 中学校への出前授業(予定)

■成果および今後の展望

本プロジェクトは、エコ・リーグ初の教育教材開発のための本格的な企画です。また、テーマ的にも一般的な環境問題に関するものではなく、人権と紛争をテーマにしたものでした。エコ・リーグとしては、このような課題にも取り組んでいくことで、活動する若者がより広い視野を手に入れ、より本質的に問題をとらえられるようになることを期待しています。

教育教材開発専門の企業の方や複数の中学校の先生方にご支援を頂き、充実した教材を開発することができました。また、知識面でのインプットとして、NGOと国連において実際に現場で活躍されている専門家の方々にも助言を頂きました。その結果これまでになかったつながりを広げることができました。

一方で、参加者のうち、最後まで中心に関わる人が限られてしまい、参加者間での役割分担が思うように進みませんでした。各地に散らばるメンバー間でどううまくプロジェクトを進めていくかはこれからの大きな課題です。(福島宏希)



メルマガプロジェクト

メールマガジン事業は「情報発信力の強化と新たな収益源の創造」を目的として、2011年7月からスタートしました。事業開始の背景には、エコ・リーグ主催イベントの参加者の皆様から「環境関連情報を受け取りたい」というご要望をいただいております。その声にお応えしたいという思いもあります。

メールマガジンでは、エコ・リーグのネットワークをいかし、様々な国や地域、分野で活躍する方の声、最新のイベント情報を、約500名の読者の皆様に対して隔週で配信しています。

■成果および今後の展望

メールマガジン事業の反省点として、掲載記事の確保や配信間隔について運用が安定的ではなかったことがあげられます。安定運用のために、定期的な連載を引き受けていただける執筆陣の確保、さらに中長期的な記事計画の策定を進めていかなければなりません。

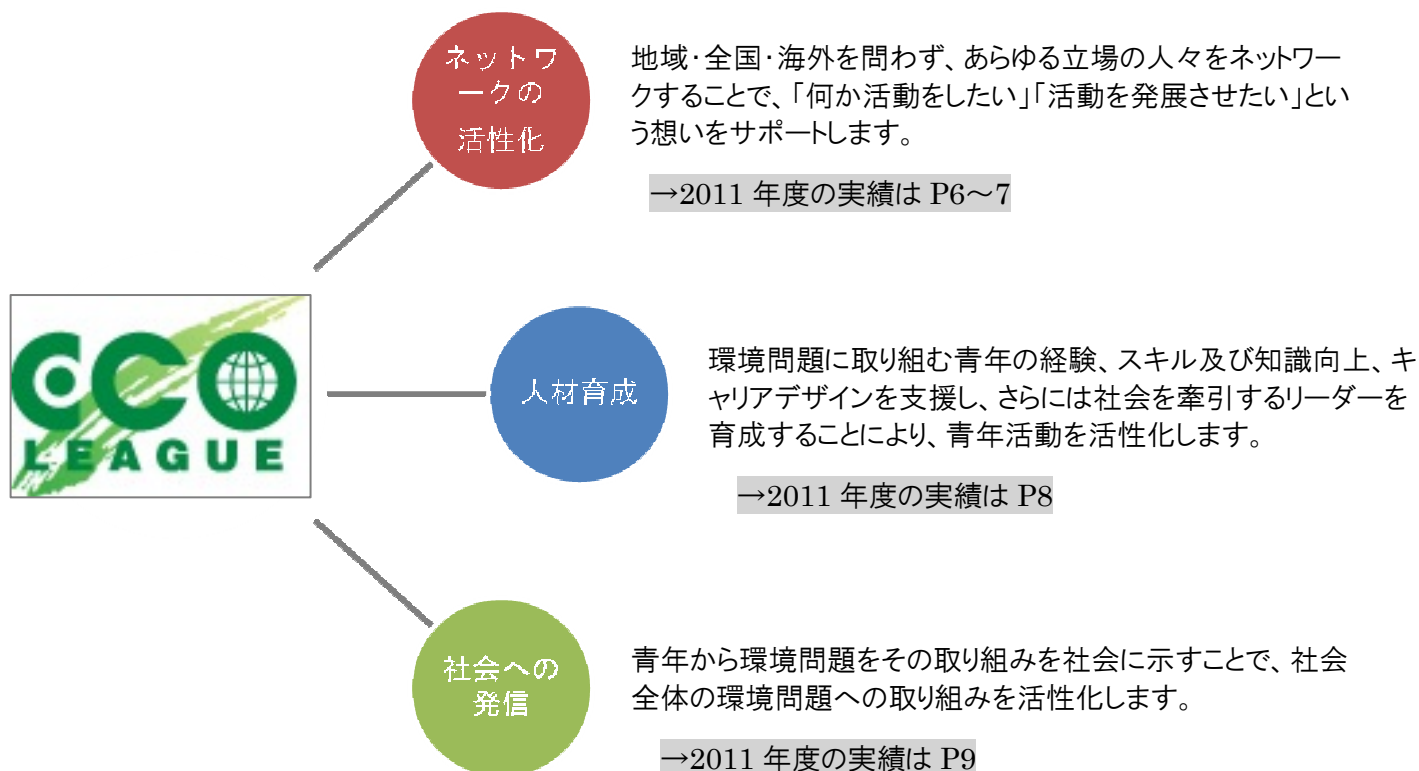
また、読者拡大のための戦略の欠如も同様に反省すべき点です。メールマガジンを新たな収益源とするためには、前提として多くの読者が必要不可欠です。どのように読者を増やしていくのか、エコ・リーグ主催イベントはもとよりSNSなどのインターネットを活用したプロモーションを具体的に実行していく必要があります。(原田弘幸)



※エコリーガーオンライン Mail へのご登録(無料)は左の QR コードから
または右記 URL から <http://project.eco-2000.net/mm/subscribe>

事業概要

「ネットワークの活性化」「人材育成」「社会への発信」、これらの3つの視点から、私たちとさらに将来の世代にわたる新しい時代の在り方を模索し、かつこれを実現する方法を見出します。



ネットワークサポート事業

各地域事業部では主に、春の新入生歓迎の時期に合わせた交流イベントと、年度末の地域ギャザリングが開催されました。年度初めには交流メインの事業は自重し中止・延期とする場合もありましたが、年々ギャザリングで積み上げたネットワークの基盤を生かし結果として百人規模を集める事業として成功を収めています。その他、まだ事業部を設置できていない北海道・中部・中国・九州地域への出張やキーパーソン発掘も実行しましたが、具体的な事業開催にはまだ至っていません。

また今年度は夏の全国ギャザリングを開催せず、環境以外の社会問題と連携をした新たな全国事業 Beyond を9月に行いました。これまでのギャザリングで広めていった知名度とつながりを用いて、ネットワークを広げるだけでなく、ネットワークを使った次のステップを模索しています。

この他にも、人材育成もねらいとしたカフェ形式小規模事業や、ネットワーク団体のデータ化、団体訪問によるニーズ調査、などネットワーク事業として何が必要か考えているものの計画止まりです。これらを案で終わらせないこと、と同時にまだまだネットワークが形成されていない地域・分野へとつながりを広げていくこと、どちらも大事にし更なるネットワークの強化を図っていかねばなりません。

(大木 博文)



▲ エコ情報交流会



▲ *econnect*

事業名	時期	地域	参加者数	事業内容
エコ情報交流会 2011	5 月	関東	138 名	NPO、学生団体の活動情報提供・マッチング
econnect(関西合同新歓)	6 月	関西	97 名	NPO、学生団体の活動情報提供・マッチング
もりおか環境課外授業	7 月	東北	32 名	地域の学生のネットワーク
ふみだせ四国 ～Youth Ecology Gathering～	9 月	四国	40 名	地域の環境交流合宿
みちのく発信広場	11 月	東北	44 名	地域の学生のネットワーク
After Beyond Party (After Beyond Project)	12 月	関東	30 名	Beyond2011 参加者を中心にした活動報告・交流会
みちのくギャザリング	2 月	東北	62 名	地域の環境交流合宿
学生のための NPO・学生団体の合同説明会(After Beyond Project)	3 月	関東	115 名	NPO、学生団体の活動情報提供・マッチング Beyond2011 のアフターフォロー
うみだせ四国 ～Youth Ecology Gathering～	3 月	四国	66 名	地域の環境交流合宿
関東3月ギャザリング 2012	3 月	関東	102 名	全国規模の環境交流合宿
エコ・リーグカフェ	4.6.11.1 月	関東	計 26 名	興味を持ったテーマを掲げさまざまな学生を集めて話し合う会
関西ギャザリング 2012	3 月	関西	53 名	地域の環境交流合宿

ネットワークサポート事業

■参加者の声

【関西ギャザリング】

1 番の思い出は、2 日目のグループでの議論です。日本のエネルギーの未来を見据え、自分たちが普段から感じている想いや疑問をぶつけあい、わからないことはその都度調べながら考えをまとめていく作業は、難しくしかし興味深い経験でした。

また、最終日の実行委員長による挨拶では、感極まった実行委員長の姿に胸を打たれました。

同年代の人々とエネルギーに関して議論する機会を頂けたことに感謝しつつ、鼓舞された勢いをそのままに今後の自分の日々の活かしていこうと思います。

(芦田 雄太さん)



▲ 関西ギャザリング

同じグループワークでも理想を掲げるのは意外と簡単で、方針にしたがった政策に落とし込むことの難しさを(徹夜で)痛感しました。

関西各地で活躍中の同年代と一緒に悩んだことが、今も自分の起爆剤になっています。

(北野 絵里さん)

【関東ギャザリング】

エコリーグのイベントは、自分のレベルでついていけるのかと抵抗を持つ一面もありました。でも、そのままでは何も始まりません。実際、参加してみれば、今回のギャザリングは過去の自分を見直し、未来の自分を描くという、誰でもできる事でした。

でも、様々な熱い思いを抱いた若者が集まるギャザリングでこそ、深みを増すコンセプトだったと思います。

自分の活動のためにも、ネットワークを広げるためにも、充実した3日間でした。

(市川 満久さん)



▲ 関東ギャザリング

■スタッフの声

みちのくギャザリングスタッフとしての活動を通じ、様々なことを感じましたが、何よりとにかく楽しかったということが強く心に残っています。

スタッフの仕事は大変ではあったものの、充実感や達成感の方が苦労より大きかったです。スタッフみんなでキャンドルナイトやアイスブレイキングなど様々な企画を考えました。

時にはぶつかり合ったこともありましたが、それは最後の感動の序章にすぎませんでした。

自分自身スタッフを通して大きく成長することができたと感じています。

(佐々木 尚さん)



▲ みちのくギャザリング

人材育成事業

マネジメントサポート系事業

2011年度は「Rio+20」をテーマとして掲げ、「地球サミット2012に向けた勉強会@東北,関東」「関西ギャザリング2012」を行いました。

2012年は地球サミットから20年:

青年環境活動の転機となった地球サミットから20年になります。節目の年を前に、20年間を振り返り今後の社会について考えるきっかけとして東北・関東での勉強会、及び関西ギャザリング2012を開催しました。

運営に必要なスキルを学ぶ場だけでなく、今後は社会問題への知識や理解を深めていく上記のような場も積極的につくっていききたいと思います。
(岡田 彩)

事業名	時期	地域	参加者数	事業内容
森林・林業スタディーツアー	11月	東北	14名	林業から持続可能社会を考えるための現場見学とワークショップ
スキルアップセミナー	7月	関東	12名	活動学生メンバーが活動する上で必要となるスキルを学ぶ場

キャリアサポート系事業

「環境就職進路相談会2012」および、「エコワークナビ」を通じてキャリアに関わる人材育成事業を行いました。

「環境就職進路相談会2012」では環境問題に仕事として取り組む社会人を集めて、これから就職活動をする大学生・大学院生に対して集団相談会を行いました。イベントの前半には、「スマートグリッド」を、関西では「あなたの考える環境就職とは、収入を得ることと環境問題に貢献することのジレンマ」をテーマにパネルディスカッションを行い最新の社会情勢に、実際に現場にいる社会人の対話を通して触れる機会を作りました。また相談会と並行して別会場では「中小企業への就職」や「CSR部署での仕事」など学生に関心の高いテーマでの分科会を行いました。

「エコワークナビ」では環境就職をしている社会人をweb上でネットワークし、OB訪問を望む学生との対話の場を作りました。新しい取り組みとして環境就職している社会人にインタビューを行い、就職活動に取り組む学生の参考にしてもらうコンテンツを作成しました。また実際に企業で選考をした経験のある社会人を講師に迎えて30名のグループディスカッションのトレーニングなどを行いました。
(筆本 彰)

事業名	時期	地域	参加者数	事業内容
「環境」就職・進路相談会 2011in 関東	12月	関東	270名	環境就職及び進学を目指す学生向け進路相談会
「環境」就職・進路相談会 2011in 関西	12月	関西	34名	環境就職及び進学を目指す学生向け進路相談会
エコワークセミナー	5・10月	関東	28名	環境就職を目指す学生向けに環境分野で働く社会人の仕事紹介や相談会

社会発信事業

テーマを絞った専門的な活動を展開することで、環境問題により直接的に働きかけています。

RRR

■2011 年度活動内容

2011 年度は金属資源にまつわる問題の中でも、金属を採掘する段階で生じる問題と廃棄された後に起こる問題を調査・発信する活動を行いました。金属を採掘する段階で生じる問題の一つである「紛争鉱物問題」については P4 に記載したとおりですので、ここでは廃棄された後に生じている問題である「e-waste 問題」に関する活動を報告します。

1)e-waste 問題とは

e-waste 問題とは、日本などの先進国から電気・電子機器廃棄物(e-waste)が非合法で中国等の国に輸出され、それを再資源化する際に適切な設備や環境がないため、汚染等の環境問題や労働問題が生じているという問題です。

2)調査

RRR メンバーは 2011 年 9 月に中国の貴州(グイユ)にて、現地 NGO の方の案内を受けながら現地を視察しました。また、国内の NPO をはじめとする問題に詳しい方へのヒアリング活動を実施しました。

3)発信

WEB、冊子、小型家電回収ボックスの側面を活用したものの 3 つの方法で発信しました。小型家電回収ボックスについては、早稲田大学理工学部前に設置しているボックスの側面に e-waste 問題に関する写真及び文章を掲載しました。



▲中国にて e-waste 問題の調査

■今後の予定

今後も引き続き調査及び発信活動を行っていきます。

調査に関しては、これまでの「紛争鉱物問題」「e-waste 問題」はもちろんのこと、安全保障やリサイクルを含め幅広く金属資源について調べた上で、問題の根本的解決を目指すため深い考察を行い、発信のベースとします。

発信は、学生団体や中学校などの場所で直接話し問題を伝える活動と、Facebook やブログといった WEB を活用して情報発信をします。その際、直接話す活動と Facebook を連動させることで、意識の継続と効果的な情報発信を目指します。

(原山 青士)

CCC

2008 年から大学における環境・省エネ対策の実施状況の把握を目的とした調査、および調査結果から得られたデータを基に策定するエコ大学ランキングの発表を行っています。第 3 回目となる 2011 年度は全国約 750 校を対象に調査を行い、166 校が回答しました。その結果、名古屋大学が大規模大学として初めて総合第 1 位となりました。ランキングの結果は新聞やテレビなど約 20 のマスメディアに取り上げられ、大きな注目を集めました。2010 年からは全国で初めてとなる、大学内の環境対策に特化した書籍「全国エコ大学白書」を発行しています。

(上地 成就)

事業名	時期	地域	参加者数	事業内容
今さら聞けない?! 国際交渉 ～生物多様性条約 COP10 を事例にして～	8 月	関東	11 名	COP10 内で議論された内容について青年を対象とした勉強会
生物多様性とこれから。COP10 を受けてユースがやっていくべきこと	9 月	関東	9 名	COP10 を自分たちの今後の生活においてどう生かすかをテーマにおいたワークショップ
Beyond2011	9 月	関東	263 名	社会問題の知識総括と学生による議論、新規活動創出
あなたと生物多様性をつなぐ日	12 月	関東	15 名	COP10 を自分たちの今後の生活においてどう生かすかをテーマにおいたワークショップ
環境就職進路相談会 2011in 関西	12 月	関西	34 名	環境就職及び進学を目指す学生向け進路相談会

ご支援、ご協力、参加委員会（50 音順）

■寄付・支援金等

2011 年度は以下の寄付をいただきました。誠にありがとうございました。

【環境活動支援金】エコ・リーグ主催・共催事業へ参加する学生(高校生・専門学校生・大学生・大学院生等)の交通費の補助として、8 名から 80,000 円をいただきました。

【エコポイント・その他】家電・住宅エコポイント寄付制度およびその他の寄付として、合計 232,098 円をいただきました。

■助成

- ・Global Greengrants Fund
- ・Rainforest Action Network
- ・独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金

■受託

- ・企業と生物多様性イニシアティブ
- ・株式会社 NHK プロモーション
- ・パナソニック株式会社
- ・ブリティッシュ・カウンシル
- ・リレーションズ株式会社

■参加委員会

- ・+ESD 普及委員会
- ・Rio+20 国内準備委員会
- ・温暖化対策学習モデル事業検討委員会
- ・国連生物多様性の 10 年日本委員会

寄付プロジェクト

寄付プロジェクトは、エコ・リーグが毎年抱えている課題の「単年度赤字」、「安定しない財源」の改善策の一つとして生じたプロジェクトです。エコ・リーグでは 2009 年より職員の雇用を開始し、毎年 200 万円程追加で資金を調達する必要があるため、財源の安定化が急務の一つとして挙げられます。しかしながら、総収入の 6～8 割は事業収入のため、イベントの出来により変動が激しく財源基盤としては不安定だとも言えます。そのため、寄付を強化、継続してもらい仕組みを作ることで、赤字の解消および、財源の安定化を図ることが目的です。また、昨年度 NPO 法人格を取得、今後は 3,000 円以上の寄付を 100 人以上から集めることで認定 NPO 法人として認められることもあり、寄付を強化する動機となっています。

2011 年度は「環境活動支援金」という名称で、ギャザリングの交通費補助としての寄付を募集しました。これは、用途を明確にすると寄付が増えるかどうか、また、交通費補助を推進することで参加者が増えて参加収入の増収につながるかどうか検討するためです。

対象としたイベントは下記の 4 つです。

Beyond('11 年 9 月)・みちのくギャザリング'12('12 年 2 月)・関東および関西ギャザリング'12('12 年 3 月)

結果として集まった寄付は、総額:80,000 円。8 名の方から寄付をいただきました。

【内訳】みちのくギャザリングへ:10,000 円 関東ギャザリングへ:5,000 円 関西ギャザリングへ 5,000 円 指定なし 60,000 円(※)

※2012 年 9 月開催予定の全国ギャザリングで使用する予定です。

「環境活動支援金」としての寄付は、広報の不足もあり目標としている人数には達しませんでした。また、寄付金を集めることができなかったため、イベントの参加者増へもつながっていません。しかし、寄付をしていただいた人からの声として、「直接頑張っている学生へ寄付したい」などの声もあり、継続していく場合は、内容を再考するとよいと思われます。

また、今回の寄付の集め方では、直接的にエコ・リーグの収入につながるわけではなく、やはりストレートに「エコ・リーグの運営に対しての応援としての寄付を募る」ことに主眼を置く必要があると考えています。寄付を集めるうえで、エコ・リーグの現状や今後やりたいこと、現在の課題をきちんと説明し続けること、寄付の使用用途を明朗にすることなど…もらったら終わりではなく、来年もまた寄付してもらえるように、随時エコ・リーグからのコンタクトがある仕組み作りをしていくことが重要だと考えています。

(田島奈津子)

2011 年度収支決算書

2011年度 収支決算書

自 2011年4月1日 至 2012年2月20日

エコ・リーグ(全国青年環境連盟)

(単位:円)

科 目	金 額		
I 収入の部			
1 会費収入			
(1) 普通会員会費収入	182,000		
(2) 賛助会員会費収入	15,000	197,000	
2 事業収入			
(1) ネットワーク事業	1,693,400		
(2) 人材育成事業	1,254,428		
(3) 社会発信事業	5,952,616		
(4) 情報収集・発信事業	810,616		
(5) その他	603,068	10,314,128	
3 寄付金収入		232,098	
4 助成金・補助金収入		2,772,000	
5 受取利息		1,621	
6 雑収入		3,000	
7 謝金収入		133,882	
当期収入合計			13,653,729
II 支出の部			
1 事業費			
(1) ネットワーク事業	269,020		
(2) 人材育成事業	345,793		
(3) 社会発信事業	5,051,601		
(4) 情報収集・発信事業	427,720		
(5) その他	0	6,094,134	
2 管理費			
(1) 給与手当	2,257,350		
(2) 法定福利費	127,537		
(3) 福利厚生費	0		
(4) 諸謝金	177,500		
(5) 旅費交通費	493,940		
(6) 通信運搬費	306,273		
(7) 消耗品費	218,476		
(8) 備品購入費	154,059		
(9) 印刷製本費	25,145		
(10) 水道光熱費	103,000		
(11) 賃借料	726,020		
(12) 新聞図書費	0		
(13) 諸会費	0		
(14) 会議費	16,500		
(15) 保険料	0		
(16) 修繕費	0		
(17) 租税公課	464,900		
(18) 支払利息	0		
(19) 雑費	18,990		
(20) 減価償却費	0	5,089,690	
当期支出合計			11,183,824
当期収支差額			2,469,905
前期繰越収支差額			11,171,462
次期繰越収支差額			13,641,367

2011年度収支決算書

自 2012年2月21日 至 2012年3月31日

特定非営利活動法人エコ・リーグ

(単位:円)

科 目	金 額		
I 収入の部			
1 会費収入			
(1) 普通会員会費収入	19,000		
(2) 賛助会員会費収入	0	19,000	
2 事業収入			
(1) ネットワーク事業	796,769		
(2) 人材育成事業	0		
(3) 社会発信事業	598,002		
(4) 情報収集・発信事業	21,120		
(5) その他	0	1,415,891	
3 寄付金収入		13,879,819	
4 助成金・補助金収入		0	
5 受取利息		82	
6 雑収入		0	
7 謝金収入		55,950	
当期収入合計			15,370,742
II 支出の部			
1 事業費			
(1) ネットワーク事業	1,183,371		
(2) 人材育成事業	0		
(3) 社会発信事業	2,235,684		
(4) 情報収集・発信事業	0		
(5) その他	0	3,419,055	
2 管理費			
(1) 給与手当	195,000		
(2) 法定福利費	94,453		
(3) 福利厚生費	0		
(4) 諸謝金	55,910		
(5) 旅費交通費	22,970		
(6) 通信運搬費	32,747		
(7) 消耗品費	76,394		
(8) 備品購入費	0		
(9) 印刷製本費	0		
(10) 水道光熱費	20,600		
(11) 賃借料	97,204		
(12) 新聞図書費	0		
(13) 諸会費	0		
(14) 会議費	0		
(15) 保険料	0		
(16) 修繕費	0		
(17) 租税公課	5,816		
(18) 支払利息	0		
(19) 雑費	9,565		
(20) 減価償却費	0	610,659	
当期支出合計			4,029,714
当期収支差額			11,341,028
前期繰越収支差額			0
次期繰越収支差額			11,341,028

エコ・リーグのあゆみ

西暦	エコ・リーグの沿革	エコ・リーグに関係する 主な青年環境活動	社会の主な出来事
1990			ドイツ統一、バブル崩壊
1991		A SEED JAPAN キャンペーン	ソ連崩壊、リサイクル法
1992		日本青年環境開発会議 「国際青年環境 NGO A SEED JAPAN」発足	地球サミット(リオデジャネイロ)
1993	Youth Ecology Camp'93(長野県美麻村)開催(エコ・リーグ設立準備委員会発足)	日本青年環境会議(March Meeting) スピーカーズツアー 広島宣言(※) 「きやんぱすえころじー委員会」発足 環境オープンゼミ発足	EU 発足 55 年体制終焉 環境基本法
1994	エコ・リーグ設立		環境基本計画
1995	全国事務所を東京都渋谷区桜ヶ丘町に設置 「きやんぱすえころじー実行委員会」が EL のプロジェクト化「ECO LINK」誕生 「環境」就職・進路相談会」開始 えこわーく station	Youth Action for APEC	阪神大震災 容器包装リサイクル法
1996	全国事務所が移転(東京都新宿区新宿)	「SCOP」発足	ISO14001 発行 O-157 流行 グリーン購入ネットワーク(GPN)発足
1997		Cool Earth キャンペーン 「自転車きやらばん」発足	気候変動枠組条約 COP3(京都会議) 日本海重油流出事故 Global Reporting Initiative (GRI) 発足
1998		「ECO 学園祭ネットワーク」発足	NPO 法成立 家電リサイクル法
1999	日韓環境ギャザリング開始 えこみゆにけーしょん開始	環境政策ネットワーク発足	所沢ダイオキシン問題 エコファンド
2000	全国事務所が現在の場所へ移転(東京都新宿区神楽坂) 理事会制度開始	「コンビニの環境改善を考える学生の会」発足	循環型社会基本法 各種リサイクル法
2001		環境共育 NGO「ToBe」発足 「環境ムーヴメント」発足	環境省発足 米同時多発テロ
2002	スピーカーズツアー実施 「環境」就職・進路相談会」エコプロダクツにて開催(以後、毎年実施)		地球サミット(ヨハネスブルク)
2003	世代間環境フォーラム 2003 開催		世界水フォーラム京都会議 環境教育推進法 CSR
2004		「日米環境学生会議」開始(Japan for Sustainability 主催)	外来種法 環境配慮促進法
2005	国連環境計画(UNEP)TUNZA 北東アジア青年環境ネットワーク会議開始 エコ・リーグは日本窓口団体となる	「ペーパープラン」発足 「全国大学生環境活動コンテスト」開始	京都議定書発効 クールビズ
2006	Start UP 3R 開催(全国大学生生活協同組合連合会との共催)		アスベスト新法 RoHS 指令開始
2007		Japan Youth G8 Project 発足	レジ袋利用抑制の義務付け(容リ法)
2008	EcoWork ナビ開始 Campus Climate Challenge 開始	持続可能な社会のための世界青年サミット	京都議定書約束期間開始 G8 洞爺湖サミット
2009	専従有給職員雇用開始	「Climate Youth Japan」発足	エコポイント制度
2010	がけつぶちの生物多様性キャンペーン(A SEED JAPAN との連携)		生物多様性条約 COP10(名古屋会議)
2011			東日本大震災

組織概要・役員一覧

組織概要

【名称】特定非営利活動法人 エコ・リーグ

【英語名】Japan Youth Ecology League

【代表理事】岡田彩(2012 年度～)

【設立】1994 年 8 月

【法人格取得】2012 年 2 月

【会員数】約 200 名

【スタッフ】

東北事業部(約 10 名)

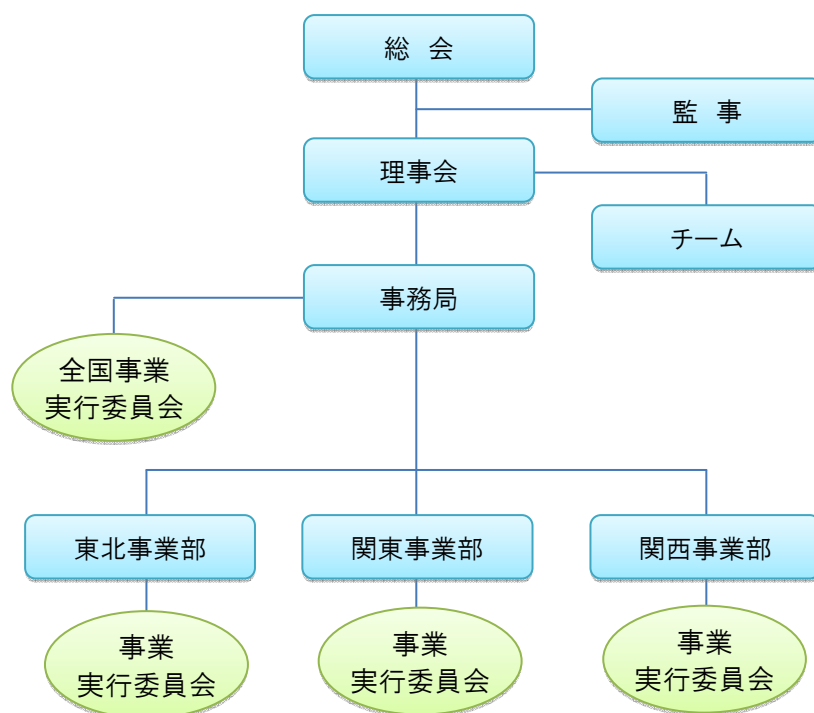
関東事業部(約 10 名)

関西事業部(約 10 名)

事務局(約 10 名)

【事務局有給職員数】

2 名(非専従職員を含む)



2011 年度役員一覧

代表理事 若田 謙一

副代表理事 岡田 彩

同 坂本 卓司

理事 一宮 祐輔

同 大木 博文

同 種田 真麻里

同 常深 泰宏

同 芳賀 知大

同 原田 紘子

同 筆本 彰

監事 井上 雅之

太田 翔

小林 功英

当団体は 2012 年 2 月に NPO 法人化いたしました。役員の変更はありません。

サポート・会員・ボランティア募集

会員募集

エコ・リーグの活動は会員の皆さまのご支援によって支えられています。

会員になると以下のような特典があります。

- ①エコ・リーグ主催イベントや出版物で会員割引が受けられます。
- ②エコ・リーグの活動や環境情報を掲載した季刊情報誌「エコリーガー」を E メールにてお届けします。
- ③自由に情報発信・交流ができる会員メーリングリストに登録されます。
- ④会員になると、イベントスタッフや事業部員としてエコ・リーグの運営に参加できます。

会員区分	説明	年会費
正会員	この法人の目的に賛同し、法人の運営に積極的に参加するために入会した個人	29 歳以下 3,000 円
		30 歳以上 5,000 円
青年会員	この法人の目的に賛同して入会した、16歳以上29歳以下の個人で希望する者	3,000 円
賛助会員	この法人の目的に賛同し賛助するために入会した個人及び団体	一口 5,000 円 (一口以上)

■入会方法

右記の Web サイトをご覧ください。 <http://portal.eco-2000.net/modules/tinyd0/index.php?id=3>

エコ・リーグは、若手社会人・学生中心のボランティアスタッフによって支えられている非営利組織(NPO 法人)であり、特定の宗教・政治勢力とは一切関係なく、支持もしておりません。会員の皆さまからの会費により支えられています。

ボランティア募集

楽しくてアツい思いをもった仲間と一緒に、イベント作りやキャンペーンの準備等のスタッフをやってみませんか？

あなたの新たな成長にもきっとつながるはずです。

お近くのエコ・リーグスタッフにご連絡いただくか、事務局まで電話または E メールでご連絡ください。

スタッフストーリー

環境問題の解決に向けて何かしたい!でも何をしたいのか分からない・・・
そんな大学 1 年生の春にエコ・リーグに出会いました。

エコ・リーグで活動する中で、ネットワークする様々な団体の活動に触れ、
また、自分のテーマを持って活動する先輩や志の高い同期に出会うことが出来ました。

4 年間を通して森林問題を解決したいというテーマを見つけ、今では
林業を行う事業体に就職し、仕事を通して問題解決に向けて日々を
過ごしています。

(齊藤駿一)



物販

エコ・リーグでは、全国ネットワークと豊富な人材を活かし、事業に関係する書籍の出版を行っています。

2011 年度は、CCC 事業の集大成として、「全国エコ大学白書 2011」を発行。

第3回エコ大学ランキングの結果や、各大学の温暖化対策最新動向を掲載しています。

大学関係者の方々や行政機関の方々を中心に大好評をいただいております！

購入をご希望の方は事務局までお問い合わせください。

▼ 2011 年 12 月発行 / A4 サイズ / 全 95 ページ / 価格¥600

Campus
Climate
Challenge

全国エコ大学白書 2011

特定非営利活動法人エコ・リーグ 2011 年度事業報告書

【関東事務所】

[住所] 〒162-0825

東京都新宿区神楽坂 2-19 銀鈴会館 507

[TEL/FAX] 03-5225-7206

[E-mail] eleague@mx.mesh.ne.jp

【関西事務所】

[住所] 〒531-0064

大阪府大阪市北区国分寺 1-7-14

国分寺ビル 6F 天六さじき内

[E-mail] w-office@eco-2000.net

[Website] <http://el.eco-2000.net/>